

【公募型】 令和 4 年度 客員研究員 研究報告書

滋賀大学経済経営研究所

氏 名	氏名 (ふりがな)	所属学科・職名
	李珊	南山大学大学院社会科学部研究科・博士後期課程

期 間	令和 03 年 4 月 1 日～令和 04 年 3 月 31 日
調査・研究のテーマ	①金融市場における部分民営化政策・預金準備率政策 ②銀行産業における混合寡占競争と銀行間合併行動
研究成果の概要 (中間成果も可)	<p>本研究①においては公的金融機関の部分民営化について議論する。具体的には、1 行の公的金融機関と <math>n</math> 行の民間金融機関が存在する金融市場を想定し、これらの金融機関が寡占競争するとき混合状態と半民営状態（公的金融機関が部分民営化された状態）という 2 つの均衡をそれぞれ導出する。さらに、社会厚生を最大化する時の公的金融機関に関する政府の最適株式保有比率を導出し、この状況における各銀行の利潤、社会的厚生についてそれぞれ導出する。金融政策の分析については、上で述べた部分的民営化政策の他、預金準備率政策を分析する。分析した結果、預金準備率が上昇すると、公的金融機関の貸出量はある水準まで増加し、そこから減少する性質にある。民間金融機関の貸出量、および全金融機関の利潤は減少する傾向にある。最後に、社会厚生を見ると預金準備率が上昇するとき、まずは改善するが、預金準備率がある水準を超える時、反転して減少することになることが示される。本研究とはこれまでの混合寡占市場の研究とは違って、金融市場の安定性を考慮にし、預金準備を社会厚生の一つの要因と仮定するモデルを考えた。この結論は通常の混合寡占分析 Matsumura and Kanda (2005) などと異なる結果でした。</p> <p>また、②の研究では銀行業の合併行動について研究を行った。その結論は社会厚生の観点から見ると、「合併の無い民営化された状況」が最も望ましく、その後、「合併の無い混合状態」、「合併が行われた民営状態」、「合併が行われた混合状態」の順である傾向があることが数値例を用いて示されている。ただし、ある状況下においては、民間銀行に合併するインセンティブが生じているため、政府の適切な監督業務が重要であることが示唆される。</p>
研究成果発表の計画 (学会報告及び学術誌への投稿)	<p>Li, S. (2022), "Mixed Oligopoly and Monetary Policy in the Financial Market," <i>Studies in Applied Economics</i>, forthcoming.</p> <p>Li, Shan, "Mixed Oligopoly and Partial Privatization Policy in the Banking Sector," 現在投稿準備中</p> <p>太田代 (唐澤) 幸雄・李珊 「銀行産業における混合寡占競争と銀行間合併行動」, 『南山経済研究』, 南山経済学会, 2022 年 3 月刊行予定</p>